

中小企業景況調査報告書

令和4年4～6月期実績

令和4年7～9月期見通し






始良市商工会

(令和4年7月発行)

この調査は、始良市の産業状況等地域の経済動向について、四半期毎に変化の実態等諸状況を収集して実施しているものです。

























この報告書の中で、用いられているD・I指数とは、ディフュージョン・インデックスの略で、【増加・上昇・好転】の割合から【減少・低下・悪化】の割合を差し引いた値で企業経営者の景気動向を表す指数として利用されています。

〈お天気マークの説明〉

 特に好調 +30.0 以上	 好調 +29.9～ +10.0	 まあまあ +9.9～ ▲9.9	 不振 ▲10.0～ ▲29.9	 極めて不振 ▲30.0 以上
---	---	---	--	--

- 調査対象期間 令和4年4～6月期を対象とし、調査時点は令和4年6月1日とした。
令和4年7～9月期は予測値となる。
- 調査方法 商工会の経営指導員による訪問及び面接調査による。
- 調査対象商工会 始良市商工会
- 回答企業 対象企業 30企業（※始良市29企業を基に指数を表示しており、あくまでも参考指数と理解下さい。）
製造業：7企業 建設業：7企業 小売業：8企業 サービス業：8企業

県内産業別業況DI

		製造業		建設業		小売業		サービス業	
対前年 同月比	3年 4月～6月期		▲20.9		▲10.4		▲28.3		▲37.7
	3年 7月～9月期		▲18.9		▲13.3		▲38.3		▲39.0
	3年 10月～12月期		▲14.7		▲6.7		▲30.0		▲26.6
	4年 1月～3月期		▲24.3		0.0		▲43.1		▲48.0
	4年 4月～6月期		▲29.6		▲6.7		▲25.4		▲26.7
	来期見通し7～9月期)		▲9.3		▲3.5		▲23.7		▲19.5

総合（業況）

前年同期（令和3年4月～6月期）と比較した今期（令和4年4月～6月期）の業況は、製造業▲29.6（前年同期比8.7ポイント悪化）、建設業▲6.7（前年同期比3.7ポイント改善）、小売業▲25.4（前年同期比2.9ポイント改善）、サービス業▲26.7（前年同期11.0ポイント改善）となった。今期については、オミクロン拡大の前月と比べると、建設業・小売業・サービス業については、若干の回復が見られ、県内の感染者は微減で少しずつ日常に戻りつつも、原油の高騰及び円安の影響で原材料の上昇に拍車がかかり4月から軒並み値上げラッシュとなり、中小企業も煽りを受けている。

また前期（令和4年1月～3月期）と比較すると、製造業5.3ポイント悪化・建設業6.7ポイント

悪化・小売業 17.7 ポイント改善・サービス業 21.3 ポイント改善となった。

なお、来期（令和 4 年 7 月～9 月期）の見通し（DI）としては、今期と比較すると、製造業 20.3 ポイント・建設業は 3.2 ポイント・小売業 1.7 ポイント・サービス業 7.2 ポイント改善となる。しかし、10 月からの値上げラッシュを控えコスト・プッシュ・インフレーションが続くと思われ、さらには梅雨が短かった影響による農作物の不作の影響も懸念され、依然として厳しい状況にある。

業種別景気動向

【製造業】 有効回答数 7 企業

調査対象企業内訳：食料品(2)、窯業(1)、衣類(1)、家具(1)、印刷(1)、ガラス製品(1)

	売上額		採算		資金繰り		業況	
3 年 4 月～ 6 月期		▲28.6		▲42.9		14.3		▲28.6
3 年 7 月～ 9 月期		▲14.3		0.0		0.0		14.3
3 年 10 月～ 12 月期		▲42.9		▲42.9		▲14.3		▲42.9
4 年 1 月～ 3 月期		▲42.9		▲42.9		▲28.6		▲42.9
4 年 4 月～ 6 月期		▲28.6		▲14.3		0.0		▲28.6
来期見通し(7～9 月期)		▲28.6		▲28.6		▲28.6		▲28.6

<調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・原油価格の高騰などにより、電気料金等の大幅な値上げ等があり、生産コストが急激に上昇してきている。また、原材料も軒並み値上がりしており、値上げに踏み切らざるを得ない状況。生産増で収益を確保したいが、従業員確保が難しいという別の問題もある。
- ・年明け早々から原材料仕入れ単価が上昇した。また、生産に必要な部品の欠品も続いている状況。製造業にとっては、景気の回復が実感できていない。

<経営上の問題点>

- ・原材料の価格上昇、従業員の確保難、需要の停滞を問題視している企業が多い。

【建設業】 有効回答数 7 企業

調査対象企業内訳：総合工事業(2)、設備工事業(1)、職別工事業(4)

	完成工事額		採算		資金繰り		業況	
3 年 4 月～ 6 月期		0.0		▲28.6		▲28.6		14.3
3 年 7 月～ 9 月期		▲14.3		▲42.9		▲28.6		▲28.6
3 年 10 月～ 12 月期		▲42.9		▲57.1		▲28.6		▲28.6
4 年 1 月～ 3 月期		▲57.1		▲28.6		▲42.9		▲28.6
4 年 4 月～ 6 月期		▲42.9		▲57.1		0.0		▲14.3
来期見通し(7～9 月期)		▲14.3		▲28.6		▲14.3		▲14.3

<調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・建設業の景気は、横ばいで推移していると考えられます。新しく農業分野への参入も行っておりますが、販売先の確保等課題がたくさんある状況です。建設と同様の収益が上がるよう知恵を絞らなければならないと考えています。

<経営上の問題点>

- ・官公需要の停滞、材料価格の上昇が上位を占め、経費の増加、従業員の確保難、金利負担の増加に懸念があるとしている企業もある。

【小売業】 有効回答数 8 企業

調査対象企業内訳：飲食料品(4)，衣服(1)，各種商品(2)，その他(1)

	売上額		採算		資金繰り		業況	
	傘	▲	傘	▲	傘	▲	傘	▲
3年 4月～6月期	傘	▲75.0	傘	▲62.5	傘	▲50.0	傘	▲62.5
3年 7月～9月期	傘	▲87.5	傘	▲87.5	傘	▲25.0	傘	▲87.5
3年 10月～12月期	傘	▲37.5	傘	▲37.5	傘	▲12.5	傘	▲37.5
4年 1月～3月期	傘	▲37.5	傘	▲50.0	傘	▲37.5	傘	▲50.0
4年 4月～6月期	傘	▲75.0	傘	▲62.5	傘	▲37.5	傘	▲62.5
来期見通し(7～9月期)	傘	▲50.0	傘	▲37.5	傘	▲37.5	傘	▲37.5

<調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・コロナ禍の中厳しい経営状態が続いている。ニューノーマルに合わせた販売方法や集客を構築していかなければ生き残れないと考えている。

<経営上の問題点>

- ・仕入単価の上昇を問題点として企業が多い。また販売単価の低下・上昇難、消費者ニーズの変化への対応、需要の停滞を問題としている企業もある。

【サービス業】 有効回答数 8 企業

調査対象企業内訳：洗濯業(2)・理美容業(3)，飲食店(2)，その他(1)

	売上額		採算		資金繰り		業況	
	傘	▲	傘	▲	傘	▲	傘	▲
3年 4月～6月期	傘	▲37.5	傘	▲12.5	傘	0.0	傘	▲25.0
3年 7月～9月期	傘	▲62.5	傘	▲62.5	傘	▲37.5	傘	▲50.0
3年 10月～12月期	傘	▲50.0	傘	▲75.0	傘	▲25.0	傘	▲50.0
4年 1月～3月期	傘	▲62.5	傘	▲50.0	傘	▲50.0	傘	▲50.0
4年 4月～6月期	傘	▲37.5	傘	▲37.5	傘	▲12.5	傘	▲25.0
来期見通し(7～9月期)	傘	▲25.0	傘	▲25.0	傘	▲25.0	傘	▲25.0

<調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・県の飲食店向けの支援策の効果でランチ等の客単価は上昇してきているが、様々なものの値上がりにより、仕入れ等のコストが上昇し支援策の効果も半減している状況。

<経営上の問題点>

- ・利用者ニーズの変化への対応、人件費の上昇が上位を占め、材料等仕入単価の上昇、新規参入者の増加を問題としている企業もある。

鹿児島県金融経済概況

【概要】

鹿児島県の景気は、緩やかに持ち直している。

すなわち、最終需要面をみると、個人消費は、緩やかに持ち直している。観光は、持ち直している。住宅投資は、緩やかに持ち直している。公共投資は、高水準で推移している。生産は、持ち直している。

企業部門の動向を短観（6月<鹿児島・宮崎両県集計分>）で見ると、景況感は、非製造業を中心に緩やかに持ち直している。設備投資は、高水準で推移している。こうした企業動向を反映して、労働需給は、改善しつつある。雇用者所得は、弱い動きとなっている。

【各論】

1. 個人消費

百貨店・スーパー販売額は、前年を上回って推移している。家電販売額は前年を下回った。乗用車新車登録台数（含む軽自動車）は、前年を下回って推移している。

2. 観光

主要ホテル・旅館宿泊客数、主要観光施設入場者数とも、前年を上回って推移している。

3. 公共投資

公共工事請負金額は、前年を上回った。

4. 住宅投資

新設住宅着工戸数は、分譲を中心に前年を上回った。

5. 生産

鉱工業生産指数（季節調整済）は、窯業・土石製品、電子部品・デバイスを中心に前月を上回った。

6. 雇用・所得環境

有効求人倍率（季節調整済）は、上昇した。

現金給与総額は、前年を下回った。

常用労働者数は、前年を上回って推移している。

7. 物価

消費者物価指数（生鮮食品を除く総合）は、前年を上回って推移している。

8. 金融面

預金、貸出金とも、前年を上回って推移している。

貸出約定平均金利は、緩やかな低下が続いている。

企業倒産件数は、低水準で推移している。